



第33期
中間ビジネスレポート

2008年4月1日～2008年9月30日



株式会社 図研

財務ハイライト

1

ごあいさつ

2

進化しつづける図研のEDA

4

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表.....4

中間連結損益計算書の要旨.....5

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨.....5

6

図研の年に一度のプライベート展

Zuken Innovation 2008開催速報

8

グループ会社トピックス

- エルミック・ウェスコム株式会社
- CIM-TEAM GmbH

9

会社データ

連結財務ハイライト

	当中間期 2008年4月 1日から 2008年9月30日まで	前年中間期 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	前 期 2007年4月 1日から 2008年3月31日まで
売上高(百万円)	10,283	10,099	22,018
経常利益(百万円)	815	1,428	2,769
中間(当期) 純利益(百万円)	540	878	1,757
1株当たり中間(当期) 純利益	20円89銭	33円91銭	67円86銭
総資産(百万円)	36,597	35,473	37,685
純資産(百万円)	28,307	27,109	28,316
1株当たり純資産	1,086円94銭	1,040円25銭	1,087円37銭

(注) 1株当たり中間(当期) 純利益は期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産は期末発行済株式総数により算出しております。なお、それぞれ自己株式数を控除した株式数により算出しております。

ごあいさつ

株主の皆さまには平素のご厚情に、心より厚く御礼申し上げます。ここに、第33期中間(2008年4月1日～2008年9月30日)のビジネスレポートをお届けするにあたりまして、当中間期の市場環境と当社の業績および業務活動をご説明申し上げます。

当中間期の業績について

当中間期の経済環境につきましては、サブプライムローン問題に端を発した米国・欧州における金融危機の深刻化や、株式・為替市場の大幅な変動などから世界経済が減速し、景気後退の懸念が高まっております。

このような中において、当中間期の売上高は、102億8千3百万円と前年同期比で1.8%の増加となりましたが、利益面につきましては、経常利益8億1千5百万円と前年同期比42.9%減となりました。当中間期で特筆すべき要因は次のようなことです。

- 一部のお客さまにおいて予算の実行を先送りする動きが見られ、主に基板設計ソリューションの売上が減少することとなりました。
- 自動車・産業機器の配線設計システムの販売は好調に推移しました。
- 特定用途向けICの試作・製造サービスは好調で売上が増加しました。
- ITソリューションにつきましては、前年同期の売上を下回りましたが、これは、従来よりも開発期間を要する案件が増えたことにより、売上の計上までの期間が延びていることが主な原因となっております。
- 日本およびドイツにおいて、今後の事業展開に備えて人員増強を図りました。

当中間期の業務活動トピックス

エレクトロニクス設計分野

主力製品である回路基板設計システムの最新バージョンにおいて、日本と海外の開発プロジェクトの成果として、革新的な自動配線ソフトウェアを市場投入いたしました。これにより、デジタル産業機器分野への一層の販売促進が可能となります。

設計・製造情報管理分野

PLM(プロダクト・ライフサイクル・マネジメント)システムの新たなラインアップとして、昨年来市場に投入しているプロセスを効率的に管理するシステムの対象市場を拡張し、ソフトウェア開発という管理が難しい分野に向けた新たな製品を投入いたしました。

電気設計と機械設計の協調設計分野

電気設計と機械設計それぞれの3次元データを活用して、試作品でしか検証できなかった各種の解析を行うために、リアルな3次元電子部品データの作成とサービスの提供を開始いたしました。

半導体設計分野

高速通信分野や画像処理関連の特定用途向けICデザインのIP(知的設計資産)ビジネスと、同IPを活用したデザインサービスの強化に努め、業績の向上につなげることができました。

今後の取り組み

欧米の金融危機が世界的な実体経済の悪化に波及しつつあり、決して楽観できる経済環境とは言えません。しかし、こういった時期であるからこそ、図研は足元をしっかりと見据え、中長期的な観点で既存製品の改善、新たな製品とサービスの創造につなげるべきであると考えます。

民生家電のみならず自動車、各種産業機器、航空機、電車などの車両開発、FA機器など、従来は機械技術が重要であった要素が、急速にエレクトロニクス技術に置き換わってきている傾向は基本的には変わりはありません。図研は、基盤となるEDAシステム、PLMシステムを中心に据え、お客さまとの密接なコミュニケーションを元に、それぞれの製品や産業に最適なソリューションを統合した全体的なシステムをご提供することに継続して努めてまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2008年12月

金子真人

代表取締役社長



進化しつづける図研のEDA

さらに広く、深く、拡大するマー

さまざまな分野のものづくりで、エレクトロニクスの担う役割が高まるにつれ、図研が提供するソリューションを求められるお客さまが増大しています。図研のEDA*はいま、あらゆるマーケットへ拡大・浸透しています。

*EDA : Electronic Design Automationの略。CADを中心とした電気設計分野ならびに同分野のITソリューションのこと。

家電から産業機器、航空機器まで ソリューションの強化が市場を拡大

エレクトロニクスものづくりを効率よくするため、図研では30年以上にわたり、お客さまとの密接なコミュニケーションを重ね、それぞれの製品や産業分野で必要とされる機能を開発するとともに、高精度・高品質な設計を可能とするソリューションの提供を推進してきました。

当初、図研のソリューションを積極的に導入していただいたのは、オーディオ機器や家電製品分野の製造メーカーでしたが、時代の変遷とともにデジタルカメラや携帯電話、DVD機器といったデジタル家電製品の開発・製品化に携わるお客さまに普及し、その後さまざまな分野のものづくりでエレクトロニクスの役割が高まるにつれ、自動車、鉄道車両、航空機のほか、工作機械やFA機器といったデジタル産業機器の分野に拡大してきました。

この傾向を決定づけたのが、ギガヘルツレベルまで高速化したエレクトロニクス技術のハイスピード設計環境に対応したことです。

設計上の複雑な制約条件に対応

一歩進んだハイスピード設計環境を提供

エレクトロニクス製品の設計においては、まず求められる機



能を実現するための論理的な回路を設計し、その回路図をもとに実際に電子部品を搭載した基板の設計に進む方法が一般的です。

従来なら、回路設計者が設計した回路図を見た基板設計者が、単純な計算で設計時に考慮された電気特性を長さや幅に置き換えて基板設計を進めることができました。しかし今日のようなハイスピード回路では多くの要素が複雑に干渉しあうため、各設計過程で考慮すべき制約条件が多岐にわたり、難易度が桁違いに高まってきます。

そこで図研は業界に先駆け、中核EDAシステムの『CR-5000 Lightning』で、回路設計から基板設計に至る設計プロセス全体で考慮しなければならない制約条件「コンストレインツ」を統合し、設計者が電氣的制約や物理的制約を自分自身で計算・変換をしなくても、簡単に検討・検証できる仕組みを確立しました。

設計者の意図が反映できる高品質の配線自動化を達成

もう一つ、図研がハイスピード設計環境への対応として大きな成果をあげたのが、自動配線ルーター『DRAGON』を開発し、『CR-5000 Lightning』に組み込んだことです。

CR-5000

Lightning

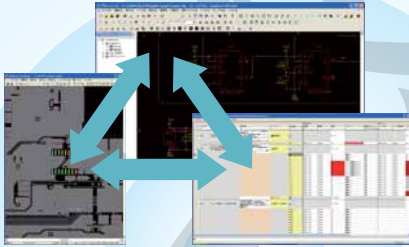


ケット

CR-5000 Lightningの進化

デザインレビュー環境

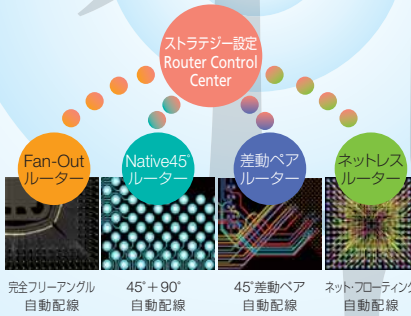
Design Gateway



Lightning Inspect

Circuit DR-Navi

画期的な自動配線ソフトウェア DRAGON



完全フリーアングル
自動配線

45°+90°
自動配線

45°差動ペア
自動配線

ネットフローティング
自動配線

その特長の一つは、自動配線技術として、まったく新しい複数の配線設計理論・手法を採用したこと。もう一つは、設計者が配線の方向性や優先順位を登録すると、その内容に従って最適な設計理論や手法を自動的に選択して配線する、画期的な戦略型ルーターであるということです。この機能により、「引けるか引けないかわからない」「引けても、使えるかどうかかわからない」と言われてきた自動配線が、「そのまま使える配線品質」となり、デジタル家電のみならず、デジタル産業機器の要求にも応える、他に類をみない高レベルのソリューションとなりました。

乗用車 ●

携帯電話 ●

デジタルテレビ ●

デジタルカメラ ●

精密機器 ●

DVD機器 ●

航空機 ●

工作機械 ●

FA機器 ●

医療機器 ●

鉄道車両 ●

特殊車両 ●

『CR-5000 Lightning』を中核とする図研のEDAは、新たなものづくり環境に対応する機能強化を積み重ね、つねに進化することで、エレクトロニクス技術が重要な鍵を握っているものづくりの領域に対して、より広く、より深くソリューションを提供し、お客さまの快適で効率的な設計環境の実現に貢献していきます。

EDAソリューションの強化が市場の拡大につながり、海外でのビジネスも活発化。そして、EDAとの緊密な連携が必要なPLM（プロダクト・ライフサイクル・マネジメント）システムを含む総合的な提案の機会もますます増大しています。

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位 千円)

科目	当中間期 (2008年9月30日現在)	前年中間期 (2007年9月30日現在)	前期 (2008年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	25,386,112	24,798,200	27,001,766
現金及び預金	4,186,104	4,190,981	4,562,756
受取手形及び売掛金	4,041,331	4,502,978	5,674,231
有価証券	15,398,761	14,693,444	15,304,046
たな卸資産	293,677	212,783	254,826
その他	1,503,963	1,287,071	1,261,130
貸倒引当金	△ 37,724	△ 89,059	△ 55,224
固定資産	11,211,858	10,675,109	10,684,161
有形固定資産	7,185,296	7,287,835	7,212,952
建物及び構築物	3,709,262	3,801,687	3,784,131
土地	3,009,559	3,009,559	3,009,559
その他	466,475	476,588	419,262
無形固定資産	1,267,797	1,226,065	1,209,107
のれん	971,670	920,888	890,235
その他	296,127	305,176	318,871
投資その他の資産	2,758,763	2,161,208	2,262,101
資産合計	36,597,970	35,473,310	37,685,928

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(単位 千円)

科目	当中間期 (2008年9月30日現在)	前年中間期 (2007年9月30日現在)	前期 (2008年3月31日現在)
負債の部			
流動負債	5,375,142	5,091,819	6,667,371
支払手形及び買掛金	550,124	380,884	1,028,475
未払法人税等	252,923	603,240	902,743
賞与引当金	747,883	683,895	708,284
役員賞与引当金	1,182	3,192	34,100
その他	3,823,028	3,420,606	3,993,767
固定負債	2,915,792	3,271,763	2,702,315
退職給付引当金	2,773,772	3,079,193	2,590,105
その他	142,020	192,570	112,210
負債合計	8,290,934	8,363,583	9,369,687
純資産の部			
株主資本	28,137,938	26,986,622	28,121,182
資本金	10,117,065	10,117,065	10,117,065
資本剰余金	8,657,753	8,657,753	8,657,753
利益剰余金	11,896,721	10,742,908	11,877,992
自己株式	△ 2,533,600	△ 2,531,104	△ 2,531,628
評価・換算差額等	5,758	△ 49,122	36,009
その他有価証券評価差額金	51,269	121,665	26,889
繰延ヘッジ損益	—	—	103
為替換算調整勘定	△ 45,510	△ 170,788	9,016
少数株主持分	163,338	172,227	159,048
純資産合計	28,307,036	27,109,726	28,316,241
負債純資産合計	36,597,970	35,473,310	37,685,928

中間連結損益計算書の要旨

(単位 千円)

科 目	当中間期	前年中間期	前 期
	2008年4月 1日から 2008年9月30日まで	2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	2007年4月 1日から 2008年3月31日まで
売上高	10,283,713	10,099,368	22,018,737
売上原価	2,612,542	2,160,710	5,370,161
売上総利益	7,671,171	7,938,657	16,648,575
販売費及び一般管理費	7,004,822	6,566,313	13,809,567
営業利益	666,348	1,372,344	2,839,008
営業外収益	179,824	170,134	325,891
営業外費用	30,871	114,262	395,388
経常利益	815,301	1,428,217	2,769,511
特別利益	66,029	14,510	54,825
特別損失	91,919	88,719	222,610
税金等調整前中間(当期)純利益	789,411	1,354,008	2,601,726
法人税、住民税及び事業税	243,505	539,818	1,358,205
法人税等調整額	492	△ 86,322	△ 524,473
少数株主利益	4,548	22,267	10,870
中間(当期)純利益	540,865	878,244	1,757,124

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位 千円)

科 目	当中間期	前年中間期	前 期
	2008年4月 1日から 2008年9月30日まで	2007年4月 1日から 2007年9月30日まで	2007年4月 1日から 2008年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	642,791	△ 275,907	1,197,862
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 692,212	△ 383,190	△ 681,985
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 153,235	△ 112,793	△ 242,791
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△ 58,488	18,778	△ 102,086
現金及び現金同等物 の増減額	△ 261,144	△ 753,112	170,999
現金及び現金同等物 の期首残高	10,539,849	10,368,850	10,368,850
現金及び現金同等物 の中間期末(期末)残高	10,278,704	9,615,737	10,539,849

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

図研の年に一度のプライベート展 「Zuken Innovation 2008」のご報告

1991年から回を重ね、今年で第16回目を迎えた年に一度の図研プライベート展「Zuken Innovation」が、10月16日(木)と17日(金)、横浜みなとみらい地区のパンパシフィック横浜ベイホテル東急で開催されました。海外のお客さま3社の事例発表を含む22のセッションに、2日間合計で1,055名のお客さまにご来場いただき、盛況のうちに終了しました。下記のプログラムとともに概要をご報告申し上げます。



パンパシフィック横浜
ベイホテル東急

今年は、テーマとして「グループ&グローバル」を掲げました。

(1) グループ

総合的なエレクトロニクスものづくりへの取り組みをご紹介するために、複数の子会社による発表の場を設けました。

(2) グローバル

初めて欧州とアジアから計3社の海外のお客さまによるご講演をプログラムに加え、同時通訳にて多くの日本のお客さまにご聴講いただきました。

日本のお客さまからのご講演は計10社にのぼり、自動車、デジタル家電、産業機器、車両機器など多岐にわたる製品分野での最先端のエレクトロニクスものづくりの事例が発表されました。また、グローバルな視点から市場や製造拠点についてコメントされている発表も多く見受けられました。

図研のセッションでは、新ソリューションの発表とともに、複数のソリューションを駆使して現実的な設計をするプロセスをご覧いただくデモンストレーションや、今後の開発計画のご紹介などを披露させていただきました。



▲ 初日、当社上野営業本部長講演の様子

10月16日(木)のプログラム

	10:30~	13:00~	14:00~	15:15~	16:15~
A会場	エレキ・メカソフト連携開発のパラダイムチェンジ	EMS企業におけるCR-5000導入効果と今後の課題 BYD様	グローバル電気設計環境の取り組み オムロン様	開発・設計プロセス革新と部品標準化の取り組み 東芝テリー様	デジタルものづくりを目指したエレメカ/部門間連携 アルパイン様
B会場		開発スケジュールのIT化、見える化~プロジェクト管理~ 図研	DS-2、CR-5000による基板設計環境の再構築 船井電機様	バイオニアにおける設計プロセス改革への挑戦 バイオニア様	DS-2を活用した設計業務のIT化 日立国際電気様



立ち見のお客さまもいらっちゃった2日目の
ジーサスによる熱設計のセッション

CR-5000 LightningとSystem Plannerの
セッションも大盛況

セッション終了後の懇親パーティにおいても、ふだんは競争関係にある同業他社のお客さま同士の交流が活発に行われ、なごやかな雰囲気の中にも、いかに日本のものづくりを支えていくかという会話が弾んでいらっちゃったようです。

▼ 懇親パーティでの当社
勝部副社長ご挨拶の様子



◀ ホワイエ(ロビー)には
プロセスに応じたソリューション一覧パネルを掲示



▲ パーティ開催中は弦楽四
重奏の演奏



▶ 2日目、当社仮屋技術本部
長講演の様子



図研は、日本のみならず全世界のお客さまとのコミュニケーションを活発に、また親密に推進することで、つねに新たなソリューションや技術サービスの開発および複合的なソリューションの最適運用提案を行い、世界のエレクトロニクスものづくりのベストパートナーとして邁進してまいります。

vation 2008

10月17日(金)のプログラム

	10:00~	11:00~	13:00~	14:00~	15:15~	16:15~
A 会場	図研の技術ビジョンと 製品開発ロードマップ	ポッシュにおけるエンジニア リングIT戦略 Robert BOSCH様	コンチネンタルにおける 図研ソリューションの活用 Continental様	図研の最新製品紹介 ~Lightning Intelligence、 System Planner~ 図研	基調講演1 シャープにおける設計プロセス 革新の取り組み シャープ様	基調講演2 トヨタにおける デジタルエンジニアリング 概説と考察 トヨタ自動車様
B 会場		熱対策への実装技術からの アプローチ 図研 ジーサス	3次元化が導く 「設計の価値連鎖」V54EEと ePartCatalogのご紹介 図研	フォークリフトにおける ハーネス設計支援システムの 構築 TCM様	パネルディスカッション テーマ:高速ボード設計 ボード設計会社複数社様	
C 会場		開発環境を最適化するための もう一つの視点 図研ネットウエイブ	製品価値を高めるLSIと組込みソフト開発の実現のために 図研、日本テキサスインスツルメンツ様		図研の最新製品紹介 ~E ³ に よるワイヤハーネス設計 ソリューション拡大~ 図研	

グループ会社トピックス

エルミック・ウェスコム株式会社

エルミック・ウェスコム株式会社は、2008年6月に持分法適用関連会社として図研グループに加わりました。株式会社エルミックシステムとして1977年に創業し、2000年に東証マザーズに上場。また、2005年にはウェスコム株式会社と合併し、現社名となっています。

代表的な製品・サービスは、携帯電話やPDA、自動車用端末、デジタルカメラ、各種AV機器やセキュリティシステムなどの開発で重要な鍵を握る組込みシステム向けのモジュール製品やハードウェアの開発、また、そのカスタマイズやインストール(システム・インテグレーション)サービス、そして受託開発などです。

なかでもメインの製品は、インターネット接続に必須の組込みシステム向けプロトコル製品「TCP/IP」と関連する製品です。

図研とのより密接なコミュニケーションを図るために、11月には本社を図研新横浜ビルに移し、11月19日～21日にパシフィック横浜で開催された「組込み総合技術展 ET2008」に図研と共同出展しました。

エレクトロニクスものづくりでますます重要度が増している組込み分野で、図研との協調の成果が期待されます。

TCP/IPが普及している分野

エルミック・ウェスコムのモジュールウェアが業界のリーダーとなっている「TCP/IP」は、携帯電話・PDA・パソコンなどさまざまな製品分野の通信手段として使われています。



CIM-TEAM社の活動速報

2006年に図研が買収したドイツのCIM-TEAM社の主要製品はE³。

図研のワイヤハーネスソフトウェアが、自動車など多くの分岐を持つ接続が主体となるケーブルリングの設計に強みを持つのに対し、E³はピンtoピンのストレートな接続やUSB、LAN等の

市販ケーブルによるデザインに強みを持ち、産業機器、工作機械、FA機器、物流オートメーション、エレベータやエスカレータなどのハーネス設計分野で高い支持を得ています。お客さまは欧米を中心に1,500社を超えており、販売したソフトウェアライセンスの総数は20,000にのぼります。

欧州では、お客さまの技術部門の責任者を招いて10月～12月にかけて「E³ Engineering Days」と銘打つセミナーを開催しており、5会場で300名を超えるご来場が見込まれています。

このセミナーではE³の最新機能の紹介に加え、図研のCR-5000やDS-2との協調設計を可能とする今後の開発計画が発表され、すでに開催されたドイツでのセミナーでは、お客さまからの熱心な質疑と今後への強い期待の言葉に会場は溢れました。

図研のソリューションと技術的なシナジーを図ることで、安定的なビジネスが展開されている欧米のみならず、今後は日本を含むアジアでもE³を積極的に販売してまいります。

「E³ Engineering Days」開催日と開催場所

10月20日～21日	ドイツ・ウルム
10月29日～30日	ドイツ・ハノーバー
11月11日	スイス・チューリッヒ
11月13日	フランス・パリ
12月 4日	イタリア・ブレシア



10月29日～30日に開催されたドイツ・ハノーバーの会場風景



10月20日～21日に開催されたドイツ・ウルムの会場風景

会社データ (2008年9月30日現在)

会社概要

社名	株式会社図研 ZUKEN Inc.
設立	1976 (昭和51)年12月17日
資本金	101億1,706万5千円
株式市場	東京証券取引所第一部
従業員の状況	従業員数 563名(連結1,248名) 平均年齢 35.2歳

本社・中央研究所	〒224-8585 横浜市都筑区荏田東2-25-1 TEL:045-942-1511 (代) http://www.zuken.co.jp/
----------	---

事業所	センター南ビル 新横浜ビル 関西支社 名古屋支社 仙台支社 中国事務所 (北京市、上海市、深圳市)
-----	---

株式の状況

発行可能株式総数	86,525,700株
発行済株式総数	27,903,669株
株主数	14,621名

役員

代表取締役社長	金子 真人
代表取締役副社長	勝部 迅也
専務取締役	嶋内 敏博
取締役	上野 泰生
取締役	仮屋 和浩
取締役	相馬 肅一
取締役	ゲルハルト・リップスキー
監査役(常勤)	和田 扶佐夫
監査役	斎藤 源次郎
監査役	荒井 洋一
監査役	三宅 錦之

関係会社

株式会社ジーサス
図研ネットウエイブ株式会社
インベンチュア株式会社
株式会社キャドラボ
株式会社チップワンストップ
エルミック・ウェスコム株式会社

ZUKEN EAO (欧米8社)
ZUKEN KOREA Inc.
ZUKEN SINGAPORE Pte.Ltd.
ZUKEN TAIWAN Inc.
図研上海技術開発有限公司
CIM-TEAM GmbH

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
金子 真人	4,500	16.12
金子真人ホールディングス株式会社	3,240	11.61
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,692	6.06
ジェーピーエムシー エヌエイ アイティーエス ロンドン クライアント アカウント モルガンスタンレイ アンド カンパニー インターナショナル	1,182	4.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	902	3.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	896	3.21
日本生命保険相互会社	803	2.87
和田 扶佐夫	800	2.86
ノヴァトラストカンパニー(エイブイエシー)サブアカウント アメリカン クライアント	771	2.76
金子 みね子	580	2.07

(注) 上記のほか、当社が所有している自己株式2,011千株があります。
持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

株主メモ

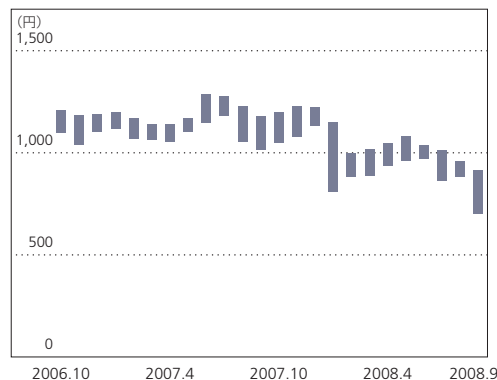
事業年度：	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会：	毎年6月
基準日：	定時株主総会の議決権 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
公告方法：	電子公告(当社ホームページ： http://www.zuken.co.jp/e-koukoku/) なお、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
1単元の株式の数：	100株
株主名簿管理人および 口座管理機関：	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所：	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-78-2031 http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
同取次窓口：	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 全国各支店
証券コード：	6947

株券電子化実施後の手続のお申出先について

平成21年1月5日(月曜日)から、上場会社の株券電子化が実施される予定です。これに伴い、株主の皆さまの権利は電子的に証券会社等の金融機関の口座で管理され、以下のとおり手続のお申出先が変更となります。

- 株券電子化後の未払配当金の支払のお申出先
これまでどおり、上記の株主名簿管理人にお申出ください。
- 株券電子化後の住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等のお申出先
 - 証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けている場合：
お取引証券会社等
 - 証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けていない場合：
特別口座を開設する上記の口座管理機関なお、②に該当される株主の皆さまにつきましては、証券会社等のご本人口座への振替請求を含めまして、お申出を受付けることができるのは、特別口座に記録される予定日の平成21年1月26日(月曜日)からとなりますのでご了承ください。

株価推移



株券電子化実施前後の単元未満株式の買取請求のお取扱いについて

株券電子化制度への移行に伴い、ほふりに株券を預けられていない株主の皆さまの単元未満株式の買取請求につきましては、次のとおりのお取扱いとさせていただきますのでご了承ください。

- 平成20年12月25日(木曜日)から平成20年12月30日(火曜日)までに受付したものの買取代金の支払は平成21年1月26日(月曜日)とさせていただきます。(買取価格はご請求日の終値となります。なお、平成20年12月30日までに値がつかない場合は、再度お手続きをしていただくこととなりますのであらかじめご了承ください。)
- 平成21年1月5日(月曜日)から平成21年1月25日(日曜日)までの間、単元未満株式の買取請求の受付を停止します。

なお、ほふりに株券を預けられている株主の皆さまに関しましては、平成20年12月22日(月曜日)から平成21年1月4日(日曜日)まで取次が停止されますので、あらかじめご了承ください。



株式会社 図研 <http://www.zuken.co.jp/>



本社・中央研究所	〒224-8585	横浜市都筑区荏田東2-25-1	TEL:045-942-1511 (代)
センター南ビル	〒224-8580	横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-11	TEL:045-942-1300 (代)
新横浜ビル	〒222-8505	横浜市港北区新横浜3-1-1	TEL:045-473-6868 (代)
関西支社	〒530-0003	大阪市北区堂島1-6-20 (堂島アバンザ)	TEL:06-6343-1141 (代)
名古屋支社	〒460-0003	名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ	TEL:052-222-3131 (代)
仙台支社	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 (仙台第一生命タワービル)	TEL:022-267-9055 (代)